

2004年1月から2025年6月までに当院でIgG4関連疾患と診断され、1年以上経過観察された患者さんは、こちらをご覧ください。

「IgG4関連疾患の臨床フェノタイプの変化に関する多施設共同後方視的臨床研究」の臨床データの研究利用に関するお願い

研究の概要・背景

IgG4関連疾患とは21世紀に入りその存在が明らかになってきた疾患です。多くは血液検査でIgG4という免疫グロブリン値が上昇し、傷害される臓器の組織中に多数のリンパ球とIgG4陽性形質細胞の浸潤と線維化を認め、それらの組織の腫大、肥厚、さらに機能低下などを認める原因不明の全身疾患です。病変は全身のどの臓器にもおこりますが、脾臓（自己免疫性脾炎とよばれています）、唾液腺、涙腺、胆管、腎臓、肺、後腹膜、動脈周囲などに好発し、多くは発見時に多臓器に病変を認めますが、単一病変の事もあります。またこれらの病変は同時に起こるだけでなく時間を違えて別の臓器におきてくることがあります、その実態は不明です。

一方、IgG4関連疾患はメインで傷害される臓器の種類により、①脾臓、胆管系主体（自己免疫性脾炎など）、②後腹膜/血管周囲主体（後腹膜線維症など）、③頭頸部主体（涙腺・唾液腺炎のみ、など）、④全身型、にグループ分けされ、グループごとに年齢、性別、血液検査値などの特徴が異なることが知られています。しかし経過中に診断時とは別のグループに移っていく方の頻度、その特徴に関する検討はなされていません。

試料・情報の利用目的・方法

本研究はIgG4関連疾患の臨床病型が変化する頻度、変化する場合の特徴を検討することを目的とした、多施設での共同研究です。診断時の年齢、性別、罹患臓器、治療、経過中罹患臓器の変化などについて過去の診療録より情報を取得します。

対象者・期間

2004年1月から2025年6月までに当院でIgG4関連疾患と診断され、1年以上経過観察された患者様が対象となります。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で過去に記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院 リウマチ膠原病内科

担当医師： 佐伯敬子

〒940-2085 新潟県長岡市千秋2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)

【福井赤十字病院におけるお問い合わせ先】

福井赤十字病院

担当医師：リウマチ膠原病内科 鈴木 康倫

〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号

電話：0776-36-3630(代)、FAX：0776-36-4133(代)